

# フィールド風

(現場)からの風

守男

10月中旬、地域のメ  
ンバーと北陸の旅に出  
掛けた。今回初めて訪  
れたのが糸魚川のひ



ひがし茶屋街・そこにしかない風情が多くの人を迎え入れている

がし茶屋街だ。「ひがし茶屋街」で知られるが、正式には東山ひがしひがしやまひがし(ひがしやまひがし)で、石川県糸魚川の地区名。重要伝統的建造物群保存地区だ。南北約1300m、東西約180m、約1.8haの保存地区内の建築物140の内、約3分の2が伝統的建造物で、茶屋町創設から明治初期に建築された茶屋様式の町屋が多い。石畳の道の両側に紅殻椅子・キムスロのお茶屋が並び、江戸時代

## 旅に出て、地域にとって今何が課題なのか考えてみませんか

の雰囲気を感じていく。紅殻椅子・キムスロの工法は、紅殻にすず(硝子)を混ぜ、木部の良材をカモフラージュすることで起きる。と言われているが、かつて木部の紅殻色から降ってくる」と言われるほどだった。当時の風情を快く感じている。文化が風づくからこそ、今も茶屋が残り、伝統文化が地域を魅力あるものになっているのだろう。

女性スタッフを指し、「あの人も18年」とほほ笑む。収容人員を満足させるスタッフ数でないことが、トランプ時の対応や料理の盛り付け内容、浴槽の清掃から想像できてしまう。最近、多くの現場でスタッフ対応に気になることが多い。明らかに人員不足が原因なのかと考えている。」「これからの時代、これが当たり前と考える人が増える。」「友人が声を掛けてくれる。私たち、大北地域も有能なスタッフの確保は大きな課題となってきた。」「どうも確かだ。」

同じ10月中旬、長野市内で開催された「女将が語る、老舗旅館がレストラン・ウェディング業に転業した決断」と題した勉強会に参加した。旧北陸街道善光寺宿の本陣として長い歴史を持つ旅館「膳屋」が転業して、今に至る経営に関する内容だ。大正13年にアール・デコ様式建築に建て替えられた建物は、平成9年に国登録有形文化財に登録されているが、旅が個人化することで、旅館業を休業し、業態転換。この推移の中で人材確保の考え方に興味を

持った。業務転換による売上高は、転換前の約10倍を起す。スタッフも現在1000人を大きく超え、今後もスタッフの確保は大きな課題と語る。旅館業時代のスタッフは、全員を解雇。若い従業員を採用し、新たなサービス展開をしている。」「膳屋を長く守り、その言葉で女将が先頭に立って「人を大切に」をモットーに、人材育成を心掛けている。」「話に、まず経営哲学があって、それらに対応する人材確保の考え方が大切と語られてくる。同じ時期に、若い世代が集まったので、職場内結婚が多くなり、子育て等がしやすいように、勤務従事時間にも気を付けている。」「有能なスタッフを手放したくないので、女将の考え方が、職場全体の一人一人のやる気を出させるのだろう。旅館業で培った接客の技が生きているに違いない。」「スタッフが集まるといって、充実感のある職場がとあるべきか。単なるシステムの駒でない、スタッフとして働き続けられる職場なのか。近い将来、70歳定年が現実化する社会に、どの様な職場が経営を継続させられるのか、スタッフ確保の方策がより求められていると、今回の旅で考えさせられた。」「(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)